

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	都市デザイン	
科目基礎情報							
科目番号	0027			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産環境システム専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：桑野園子編「音環境デザイン」コロナ社，参考書：日本騒音制御工学会編「地域の音環境計画」技報堂出版，建築学会音シンポジウム資料						
担当教員	西川 嘉雄						
到達目標							
都市デザインとして都市空間に望まれる音環境を説明できること。特に，その都市空間にふさわしい音環境を「景観への調和・騒音制御・信号音や音声情報の伝達など」の視点で説明ができる。以上の内容を満足することで学習・教育目標の(D-1)及び(D-2)の達成とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
都市計画法の用途地域に関する事項		都市計画法による用途地域と都市計画事業を理解し，具体的な都市計画の事例を説明できる。		都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。		都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できない。	
都市空間における音環境に関する事項		都市空間に望まれる音環境を説明でき，それぞれの空間に適切な音環境の目標を設定できる。		都市空間に望まれる音環境を説明できる。		都市空間に望まれる音環境を説明できない。	
騒音制御・音声情報伝達に関する事項		騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明でき，適切な目標設定や設計が出来る。		騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明できる。		騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	都市デザインのあり方を，都市空間における音環境の快適性と情報伝達を題材とし習得する。まず，都市計画法の用途地域や都市計画事業について理解する。さらに，都市空間における音環境の現状を理解し，騒音制御・信号音や音声による情報伝達・サウンドスケープ手法などを用いて景観に調和した音環境の創造について考える。						
授業の進め方・方法	講義は、概要の説明後に，各自調査や資料収集を行いレポートを作成する。また、音環境測定や信号音の作成などを行い報告書をまとめる。なお，この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。						
注意点	<成績評価>試験（70%）および教科書を基に適宜出題するレポート・報告書（30%）の合計100 点満点で学習・教育目標の（D-1）及び（D-2）を評価し，合計の6 割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー>毎週水曜日16：00～17：00，環境都市工学科，西川教員室。この時間にとらわれずに必要に応じて来室可。 <備考>常に街をある行くときなどは，都市空間と音環境のかかわりなどを意識することが重要である。なお，本科目は学習単位であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要です。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	都市計画法		都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。		
		2週	都市空間の音環境の概要／公共空間の音環境		都市空間の音環境の基礎事項として，公共空間の分類が説明できる。		
		3週	騒音による生理的・心理的影響		環境が都市の印象に与える影響，生理・心理的影響について説明できる。		
		4週	会話・作業・聴取妨害		音の評価がかわる基本事項について説明できる。		
		5週	都市空間の音環境に関する法規制		国際規格や国内法規（環境基準や騒音規制など）の概要を説明できる。		
		6週	都市空間における音環境の実態/調査方法・評価方法		音環境の調査方法，目的，結果の考察方法についての確に説明できる。		
		7週	交通機関（駅，空港・乗り物など）		音環境の調査結果により，その場に応じた望ましい音環境について説明できる。		
		8週	商店街・地下街・商業施設		音環境の調査結果により，その場に応じた望ましい音環境について説明できる。		
	4thQ	9週	公共施設・公園・緑地		音環境の調査結果により，その場に応じた望ましい音環境について説明できる。		
		10週	都市空間の信号音のデザイン/危険・情報を知らせる音		警告音，サイン音，報知音や音声による避難情報などの特徴を説明できる。		
		11週	高齢社会に配慮した音		高齢者の聴覚特性を考慮した信号音について説明できる。		
		12週	景観と音の相互作用		景観と音の関係の概要を説明できる。		
		13週	視覚と聴覚の相互作用の基礎知識		視覚と聴覚が景観に及ぼす影響を説明できる。		
		14週	サウンドスケープデザイン		サウンドスケープの概念を説明できる。		
		15週	定期試験		定期試験の実施。		
		16週	試験答案の返却など		答案返却と解説の後，試験に関する質問に対応する。		
評価割合							
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計	

総合評価割合	70	0	0	0	30	100
配点	70	0	0	0	30	100